

平成30年度

理工学部履修の手引

新旧対照表

社会基盤デザインコース

旧(変更前)

社会基盤デザインコース（昼間コース） — 進級について

1) 進級要件

各年次の進級に関して、次に示す規定がある。進級規定を満たさない場合、留年となるので、十分に注意すること。なお、次に示す単位数は卒業資格の単位数に含まれる単位数のみとなる。

1年から2年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 35 単位以上。

2年次から3年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 70 単位以上。

3年次から4年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 105 単位以上。ただし、教養教育科目のうち、すべての必修科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で 37 単位以上修得していること。加えて、学科共通科目について、卒業に必要な必修科目 8 単位および選択科目 2 単位のうち、8 単位以上を修得していること。

2) 飛び進級について

2年次に留年した場合でも、上記の4年次への進級条件を満たせば、2年次→4年次への進級（飛び進級）ができる。

新(変更後)

社会基盤デザインコース（昼間コース） — 進級について

1) 進級要件

各年次の進級に関して、次に示す規定がある。進級規定を満たさない場合、留年となるので、十分に注意すること。なお、次に示す単位数は卒業資格の単位数に含まれる単位数のみとなる。

1年次から2年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 35 単位以上。

2年次から3年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 70 単位以上。

3年次から4年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 105 単位以上。ただし、教養教育科目のうち、すべての必修科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で 37 単位以上修得していること。加えて、~~学科共通科目について、卒業に必要な必修科目 8 単位および選択科目 2 単位のうち、8 単位以上を修得していること。~~ **から、必修科目 6 単位を含む 8 単位以上を**
を修得していること。

2) 飛び進級について

2年次に留年した場合でも、上記の4年次への進級条件を満たせば、2年次→4年次への進級（飛び進級）ができる。

電気電子システムコース

旧(変更前)

電気電子システムコース（昼間コース） — 進級について

1) 進級要件

本コースでは、各学年末に進級判定が行われ、下表の進級要件に関する規定を満たす者のみ上級学年への進級を認めている。なお、その規定の進級要件の単位数には卒業資格に認められない科目（履修制限に反した科目など）の単位は含まれない。

1年から2年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目、および専門教育科目の合計 35 単位以上。

2年次から3年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目、および専門教育科目の合計 70 単位以上。

3年次から4年次への進級要件

下記の卒業研究着手条件を満たすこと。

【卒業研究着手条件】

卒業に必要な教養教育科目、および専門教育科目の合計 105 単位以上。ただし、教養教育科目のうち、すべての必修科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で 37 単位以上修得していること。加えて、学科共通科目について、卒業に必要な必修科目 10 単位、および選択科目 2 単位のうち、10 単位以上を修得していること。

2) 飛び進級について

進級できなかった場合でも、2 学年上の進級に関する規定を満たせば、その学年への「飛び進級」が認められる。

新(変更後)

電気電子システムコース（昼間コース） — 進級について

1) 進級要件

本コースでは、各学年末に進級判定が行われ、下表の進級要件に関する規定を満たす者のみ上級学年への進級を認めている。なお、その規定の進級要件の単位数には卒業資格に認められない科目（履修制限に反した科目など）の単位は含まれない。

1年から2年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目、および専門教育科目の合計 35 単位以上。

2年次から3年次への進級要件

卒業に必要な教養教育科目、および専門教育科目の合計 70 単位以上。

3年次から4年次への進級要件

下記の卒業研究着手条件を満たすこと。

【卒業研究着手条件】

卒業に必要な教養教育科目、および専門教育科目の合計 105 単位以上。ただし、教養教育科目のうち、すべての必修科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で 37 単位以上修得していること。加えて、学科共通科目について、~~卒業に必要な必修科目 10 単位、および選択科目 2 単位のうち、10 単位以上を修得していること。~~ **卒業に必要な必修科目 8 単位を含む 10 単位以上を修得していること。**

2) 飛び進級について

進級できなかった場合でも、2 学年上の進級に関する規定を満たせば、その学年への「飛び進級」が認められる。

旧(変更前)

科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で37単位以上修得していること。加えて、学科共通科目について、卒業に必要な必修科目10単位、および選択科目2単位のうち、10単位以上を修得すること。

電気電子システムコース（夜間主コース） — 卒業について

4年次終了時点で下記の卒業条件を満足すれば卒業できる。夜間主コースでは昼間にある早期卒業制度は設けられていない。

【卒業要件】

教養教育科目では、必修科目29単位、選択科目10単位（教育課程表（p.108）において指定された科目（分野）から選択すること）を含めて、計39単位を取得すること、かつ専門教育科目では必修科目53単位、選択必修科目25単位以上、および応用数理コースのコース専門科目（物性科学1、物性科学2、解析力学）から2単位以上を含めて、計92単位以上を修得すること、すなわちこれらを合計した131単位以上を修得すること。

さらに、語学マイレージ・プログラムにおいて、マイレージレベルがブロンズクラス以上（700ポイント以上）であること。

	教養教育科目	専門教育科目	計
必修単位	29 単位	53 単位	82 単位
選択必修単位		27 単位以上 (応用数理コースの2単位含む)	27 単位以上
選択単位	10 単位	12 単位以上	22 単位以上
卒業に必要な単位数	39 単位	92 単位以上	131 単位以上

専門教育科目の選択必修の科目は、各科目毎に教育課程表の単位数の右横に分野①～⑤を記載している。これらの科目は、以下の表に示すように、各分野の中で指定された科目数を選択して履修しなければならない。なお、指定以上に修得した選択必修の単位は、選択の単位に読み換えることができる。また、他コースのコース専門科目から修得した単位は選択科目として12単位まで卒業要件単位に算入することができる。

分野	専門教育科目の選択必修
①	4科目中、2科目以上選択して履修すること
②, ③, ④, ⑤	各分野毎に、3科目以上選択して履修すること
応用数理コース	応用数理コースのコース専門科目（物性科学1、物性科学2、解析力学）から1科目以上選択して履修すること

電気電子システムコース（夜間主コース） — 大学院進学について

1) 大学院

大学院では、学部よりもさらに自主的で自由な研究活動が保証され、基礎から応用にわたる種々の研究分野の中で、自分が希望する研究分野を専攻できる。教員と交流する機会も増え、各自の学力、研究能力を多面的に磨くことができる。

本学に設置されている大学院には博士前期課程と博士後期課程がある。博士前期課程は修業年限が2年で、修了すると修士の学位が与えられる。修了後、さらに研究を深めたい者には修業年限3年で博士の学位取得を目指す博士後期課程への進学の道が開かれている。国際的に見ると日本は博士の学位取得者が非常に少なく、大学や公的研究機関のみならず、企業においても研究に携わる者にとって博士の学位取得の必要性が今後ますます高まることが予想される。

本学大学院博士前期課程の入学試験は、7月上旬の推薦入学特別選抜試験と、8月下旬の一般選抜試験とがある。合

新(変更後)

科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で37単位以上修得していること。加えて、学科共通科目について、~~卒業に必要な必修科目10単位、および選択科目2単位のうち、10単位以上を修得すること。~~ **から、必修科目8単位を含む10単位以上を修得していること。**

電気電子システムコース（夜間主コース） — 卒業について

4年次終了時点で下記の卒業条件を満足すれば卒業できる。夜間主コースでは昼間にある早期卒業制度は設けられていない。

【卒業要件】

教養教育科目では、必修科目29単位、選択科目10単位（教育課程表（p.108）において指定された科目（分野）から選択すること）を含めて、計39単位を取得すること、かつ専門教育科目では必修科目53単位、選択必修科目25単位以上、および応用数理コースのコース専門科目（物性科学1、物性科学2、解析力学）から2単位以上を含めて、計92単位以上を修得すること、すなわちこれらを合計した131単位以上を修得すること。

さらに、語学マイレージ・プログラムにおいて、マイレージレベルがブロンズクラス以上（700ポイント以上）であること。

	教養教育科目	専門教育科目	計
必修単位	29 単位	53 単位	82 単位
選択必修単位		27 単位以上 (応用数理コースの2単位含む)	27 単位以上
選択単位	10 単位	12 単位以上	22 単位以上
卒業に必要な単位数	39 単位	92 単位以上	131 単位以上

専門教育科目の選択必修の科目は、各科目毎に教育課程表の単位数の右横に分野①～⑤を記載している。これらの科目は、以下の表に示すように、各分野の中で指定された科目数を選択して履修しなければならない。なお、指定以上に修得した選択必修の単位は、選択の単位に読み換えることができる。また、他コースのコース専門科目から修得した単位は選択科目として12単位まで卒業要件単位に算入することができる。

分野	専門教育科目の選択必修
①	4科目中、2科目以上選択して履修すること
②, ③, ④, ⑤	各分野毎に、3科目以上選択して履修すること
応用数理コース	応用数理コースのコース専門科目（物性科学1、物性科学2、解析力学）から1科目以上選択して履修すること

電気電子システムコース（夜間主コース） — 大学院進学について

1) 大学院

大学院では、学部よりもさらに自主的で自由な研究活動が保証され、基礎から応用にわたる種々の研究分野の中で、自分が希望する研究分野を専攻できる。教員と交流する機会も増え、各自の学力、研究能力を多面的に磨くことができる。

本学に設置されている大学院には博士前期課程と博士後期課程がある。博士前期課程は修業年限が2年で、修了すると修士の学位が与えられる。修了後、さらに研究を深めたい者には修業年限3年で博士の学位取得を目指す博士後期課程への進学の道が開かれている。国際的に見ると日本は博士の学位取得者が非常に少なく、大学や公的研究機関のみならず、企業においても研究に携わる者にとって博士の学位取得の必要性が今後ますます高まることが予想される。

本学大学院博士前期課程の入学試験は、7月上旬の推薦入学特別選抜試験と、8月下旬の一般選抜試験とがある。合

情報光システムコース・光系

旧(変更前)

情報光システムコース・光系 — 進級について

情報光システムコース・光系の進級要件に関する規定

次学年に進級するためには、当該学年終了時に、以下に示された単位数以上の単位を修得しなければならない。

次学年への進級に必要な単位数

学年	進級に必要な単位数
1年	卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 35 単位以上。
2年	卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 70 単位以上。
3年	卒業研究着手規定を満たす。

- 1年次に在籍する留年生が進級判定時に3年次への進級要件を満たした場合には、飛び進級を認める。
2年次から4年次への飛び進級は認めない。

情報光システムコース・光系の卒業研究着手規定

卒業に必要な教養教育科目及び専門教育科目の合計 105 単位以上を修得していること。ただし教養教育科目のうち、すべての必修科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で 37 単位以上修得していること。

専門教育科目のうち必修科目を 36 単位以上と選択科目を 30 単位以上修得していること。

ただし、選択科目として、P.146, 147 の表における必修科目以外の学科共通科目から 2 単位以上、コース専門科目(系共通)から 6 単位以上、応用理数コースのコース専門科目から 2 単位以上を修得していること。

加えて、STEM 演習、情報光システムセミナー、コンピュータリテラシー、プログラミング入門及び演習、電気回路及び演習から 3 科目以上と、光応用工学実験 1 及び 2、光応用工学計算機実習の 3 単位すべてを修得していること。

卒業研究に着手するために必要な単位数

区分	科目区分	単位数		
教養教育科目	一般教養教育科目群	歴史と文化	2	
		人間と生命	2	
		生活と社会	2	
		自然と技術	—	
	グローバル化教育科目群		—	
	イノベーション教育科目群		—	
	外国語教育科目群	英語	6	
		ドイツ語・フランス語・中国語	2	
	基礎基盤教育科目群	基礎数学	線形代数学 I	2
			線形代数学 II	2
			微分積分学 I	2
			微分積分学 II	2
		基礎物理学	力学概論	2
電磁気学概論			2	
ウェルネス総合演習		2		
汎用的技能教育科目群		3		
地域科学教育科目群		2		
教養教育科目単位合計		37 以上 ¹⁾		
専門教育科目	必修科目	36		
	選択科目	学科共通科目 ²⁾	2	
		コース専門科目(系共通)	6	
		応用理数コースのコース専門科目	2	
	専門教育科目単位合計		20 以上 ¹⁾	
履修単位合計		66 以上 ¹⁾		
履修単位合計		105 以上		

1) 卒業に必要な教養教育科目及び専門教育科目の合計が 105 単位となるよう修得すること。

2) ただし、P.146, 147 の表において必修となっている科目以外から選択すること。

新(変更後)

情報光システムコース・光系 — 進級について

情報光システムコース・光系の進級要件に関する規定

次学年に進級するためには、当該学年終了時に、以下に示された単位数以上の単位を修得しなければならない。

次学年への進級に必要な単位数

学年	進級に必要な単位数
1年	卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 35 単位以上。
2年	卒業に必要な教養教育科目および専門教育科目の合計 70 単位以上。
3年	卒業研究着手規定を満たす。

- 1年次に在籍する留年生が進級判定時に3年次への進級要件を満たした場合には、飛び進級を認める。
2年次から4年次への飛び進級は認めない。

情報光システムコース・光系の卒業研究着手規定

卒業に必要な教養教育科目及び専門教育科目の合計 105 単位以上を修得していること。ただし教養教育科目のうち、すべての必修科目および外国語教育科目群の選択科目の単位を修得しており、その他の選択科目と合わせて教養教育科目全体で 37 単位以上修得していること。

専門教育科目のうち必修科目を 36 単位以上と選択科目を 30 単位以上修得していること。

ただし、選択科目として、P.146, 147 の表における必修科目以外の学科共通科目から 2 単位以上、コース専門科目(系共通)から 6 単位以上、応用理数コースのコース専門科目から 2 単位以上を修得していること。

加えて、STEM 演習、情報光システムセミナー、コンピュータリテラシー、プログラミング入門及び演習、電気回路及び演習から 3 科目以上と、光応用工学実験 1 及び 2、光応用工学計算機実習の 3 単位すべてを修得していること。

また、STEM 概論、STEM 演習、微分方程式 1、技術英語入門、技術英語基礎 1、技術英語基礎 2 から 6 単位以上を修得していること。

卒業研究に着手するために必要な単位数

区分	科目区分	単位数		
教養教育科目	一般教養教育科目群	歴史と文化	2	
		人間と生命	2	
		生活と社会	2	
		自然と技術	—	
	グローバル化教育科目群		—	
	イノベーション教育科目群		—	
	外国語教育科目群	英語	6	
		ドイツ語・フランス語・中国語	2	
	基礎基盤教育科目群	基礎数学	線形代数学 I	2
			線形代数学 II	2
			微分積分学 I	2
			微分積分学 II	2
		基礎物理学	力学概論	2
電磁気学概論			2	
ウェルネス総合演習		2		
汎用的技能教育科目群		3		
地域科学教育科目群		2		
教養教育科目単位合計		37 以上 ¹⁾		
専門教育科目	必修科目	36		
	選択科目	学科共通科目 ²⁾	2	
		コース専門科目(系共通)	6	
		応用理数コースのコース専門科目	2	
	専門教育科目単位合計		20 以上 ¹⁾	
履修単位合計		66 以上 ¹⁾		
履修単位合計		105 以上		

1) 卒業に必要な教養教育科目及び専門教育科目の合計が 105 単位となるよう修得すること。

2) ただし、P.146, 147 の表において必修となっている科目以外から選択すること。

